

## 令和8年(2026年)2月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2026年2月 数量 (トン)	2026年2月 平均単価 (円)	前年同月比 数量	前年同月比 平均単価
1	野菜	大根	神奈川県・千葉県産中心の入荷でした。降雨が少なく数量は減少、平均単価はかなり安く推移しました。	706	92	85%	69%
2		はくさい	茨城県産中心の入荷でした。潤沢な入荷量と気温の上昇による売れ行き低迷により、単価安の結果となりました。数量は増加、平均単価は大幅に安く推移しました。	670	65	114%	34%
3		きゅうり	宮崎県・群馬県産中心の入荷でした。比較的安定した入荷でしたが、消費地側の気候が安定せず販売は伸び悩みました。数量はやや増加、平均単価は安く推移しました。	169	433	104%	88%
4		ほうれん草	茨城県・群馬県産中心の入荷でした。前半は低温・干ばつにより入荷減でしたが、後半にかけて適度な降雨と好天により入荷増となりました。数量はやや増加、平均単価は安く推移しました。	61	531	107%	89%
5		馬鈴薯	北海道産は昨年夏の高温・干ばつにより入荷減・単価高で推移しました。一方後続産地の鹿児島県産は長雨による入荷遅れにより単価高での展開となりました。全体として、数量はやや減少、平均単価はかなり高く推移しました。	225	329	95%	138%
6	果実	その他柑橘	いよかん・ポンカン等が昨年度の不作に比べ入荷増となりました。売れ行きは落ち着いていましたが、果実の体質が弱く産地から継続出荷されるものが多かったです。数量は大幅に増加、平均単価はかなり安く推移しました。	580	317	204%	70%
7		りんご	小玉傾向で作柄が良くなかったことに加え、9月の強風で傷みのある果実が発生したため、数量が少ないうえに下位等級の割合が大きいうえに在庫状況となりました。数量は減少、平均単価は平年並みに推移しました。	117	457	89%	98%
8		いちご	全国的に温暖な気候で経過していたことから、関東・東海・九州産地が軒並み前年より2番果のピークが早く来て、数量が伸びました。ただ柑橘類を中心とした競合果実が多かったことやいちご自体が小玉傾向であったことから、数量以上に単価の下落も大きかったです。数量はやや増加、平均単価はやや安く推移しました。	116	1,575	106%	92%

## 【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+)0~2%
- ②やや増加(減少):(+)3~10%
- ③増加(減少):(+)11~20%
- ④かなり増加(減少):(+)21~50%
- ⑤大幅に増加(減少):(+)51%以上